

平成 26 年 11 月 17 日

IOSCO による市中協議報告書「クレジット・デフォルト・スワップ(CDS)市場における取引後の透明性」の公表

証券監督者国際機構 (IOSCO) は、本日、「クレジット・デフォルト・スワップ (CDS) 市場における取引後の透明性」と題する市中協議報告書 (以下、「本報告書」という。) を公表した。本報告書は、CDS 市場における取引情報の事後公表の潜在的影響の分析を試みたものである。

本報告書は、関連する国際基準策定主体の作業及び学術文献のレビュー、及び米国の CDS 市場における取引情報の事後公表規制の導入前後の CDS 取引にかかる公に入手可能な取引レベルの取引後データの検証に基づいて分析が行われている。IOSCO は、公に入手可能な取引後データの使用状況とそれに基づき認知される市場への影響について、市場参加者や市場オブザーバーに対する調査も実施した。

IOSCO は、取引情報の事後公表規制の導入が CDS 商品にかかるリスクエクスポージャーや市場活動に大きな影響を与えているとはいえないことをデータが示しているとの暫定的な結論に至った。IOSCO は、現時点では CDS 市場における取引後の透明性をより高めることが、市場参加者と市場オブザーバーにとって価値があると考えており、各メンバーに対して各法域における CDS 市場の取引後の透明性を高めるための対策を講じるよう推奨している。

CDS は、参照主体の信用リスクを、プロテクション・バイヤーからプロテクション・セラーへ移転する契約である。国際決済銀行 (BIS) は、CDS のグロス想定元本残高が 2013 年末時点で約 21 兆米ドルと見積もっている。IOSCO は、この市場における透明性の向上が、G20 で合意した店頭デリバティブ市場改革の効果を増進させると考えている。

IOSCO は、この市場における取引後の透明性にかかる最終報告書に反映するため、本報告書に対するコメントを受け付けている。

IOSCO は、CDS 市場の傾向についての調査を続けていく予定である。